

平成 30 事業年度

業務実績報告書の概要

I 法人の概要（P1～3）

役員、学部等構成、学生数・教職員数、基本目標、機構図等

II 全体的な状況（P4～8）

全体的な計画の進捗状況、特色ある取組等

III 項目別の状況（P9～48）

年度計画に記載された項目ごとの実施状況等 計 141 項目

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する計画（95 項目）
- 2 法人の経営に関する計画（24 項目）
- 3 自己点検・評価及び情報の提供に関する計画（6 項目）
- 4 その他業務運営に関する計画（16 項目）

IV その他の記載事項（P49～53）

予算、収支計画、資金計画の実績等、別表（学生の状況）

V その他法人の現況に関する事項（P54～61）

入学者、卒業・修了者、資格免許の取得、外部資金の受入状況等のデータ

公立大学法人静岡文化芸術大学

1 全体的な状況

(1) 大学の教育研究等の質の向上

① 教育・研究

教育・研究

- 留学生の積極的受入への対応
- 文明観光学コース・匠領域の開設準備
- LMS（学習管理システム）の活用
- 両学部協働による新たな重点目標研究領域提案に向けた検討
- 科研費獲得に向けた研修会実施と申請書の Web 添削システム導入

学生支援

- 障害ある学生の入試に対応
- 語学教育と留学を一体化させた語学力向上
- 留学生 SA の試行
- 修学支援専門員の設置
- Wi-Fi 環境の改善に向けた取組

② 地域貢献

- 静岡大学、県立大学、賀茂地域 1 市 5 町と地域発展、人材育成、観光等に係る包括連携協定締結
- 賀茂 1 市 5 町と連携し、イズミル経済大学と産学共同国際ワークショップ開催
- 静岡銀行と地方創生のための協定締結
- 観光分野における県立大学との連携

③ グローバル化

- 「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」への支援継続
- 独自開拓による海外インターンシップの実施
- イズミル経済大学との国際ワークショップ 5 周年セレモニー開催
- 新たに交流協定を締結したサザンクロス大学の初回の協定派遣者を募集・決定

(2) 法人の経営

- 創立 20 周年に向けた準備
- 時間外システム導入
- 休日業務時の一時保育料支援

(3) 自己点検・情報提供

- 中間年における自己点検評価の実施
- Web アクセシビリティへの対応と JIS 適合レベル維持

(4) その他業務運営

- 屋外壁面大規模修繕と防犯カメラの更新・増設
- 大災害マニュアルの学内用と自宅用の作成
- ハラスメント相談員対象の研修会実施

平成 30 事業年度の全体的な自己評価状況

項 目	A	B	C	D	計
教育・研究	10(10.5%)	85(89.5%)	0	0	95
法人経営	0	24(100%)	0	0	24
自己点検・評価 情報公開・広報	0	6(100%)	0	0	6
その他	0	16(100%)	0	0	16
平成 30 年度計	10(7.1%)	131(92.9%)	0	0	141
平成 29 年度 評価結果計	15(10.9%)	122(89.1%)	0	0	137

自己評価基準

- A：計画を上回って実施している項目
- B：計画を十分実施している項目
- C：計画を十分には実施していない項目
- D：計画を大幅に下回っている項目

2 項目別の状況

(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する取組

(業務実績報告書 P9~P33)

特筆すべき取組及び成果等

① 教育

ア 入試広報の充実

- ・2020年度の入試改革に向け、7月に学校推薦型選抜の方法及び一般選抜の個別学力試験の教科・科目について、3月に大学入学共通テストの教科・科目及び国語・数学の記述式問題の活用、英語資格・検定試験の活用、多面的・総合的評価等について、それぞれ Web 上で公表した。【No.3】
- ・外国人留学生入試及び帰国生徒入試への様々な国から問合せが増加し、出願資格の確認をはじめ様々な質問に対応した。大学院においては、研究生制度を活用し多くの留学生の受入に積極的に対応した。【No.6 A】
- ・高校教員向けの授業見学・説明会（大学開放日）は、2日間で高校教員 100名の参加があり、推薦入試にはその参加者の勤務校から多くの出願があった。【No.11】

イ 教育内容の充実

- ・文化政策学部においては、文明観光学コースの開設に向け、本コース専任教員を文化・芸術研究センター所属として2名採用した。専任教員を中心に、文化政策学部教務委員会と各学科のコース科目担当教員とで調整を重ね、カリキュラムを確定した。【No.16】【No.43】
- ・デザイン学部においては、匠領域を加えた1学科6領域制に向け、専任教員を採用し、新設の6科目を含むカリキュラム体系を整備した。合わせて工房設備の整備計画を策定した。【No.44】
- ・デザイン学部の専門科目を、文化政策学部の文明観光学コースの専門科目として位置づけ、文化政策学部で履修できるようにした。【No.17】

ウ その他教育の取組

- ・前後期合わせて159科目延べ67人の教員がLMS（学習管理システム）を活用した。LMS利用の際のガイドラインを作成し教員に周知した。【No.20 A】
- ・授業アンケートにおいてはLMS（学習管理システム）活用により集計のための人件費を削減した。【No.20 A】
- ・学生の要望により、サークル等の新入生歓迎会や発表の場として食堂の利用を可能とした。また、学生が制作した作品や農産物の販売場所の提供等、学生の自発的活動を支援した。【No.53】

② 学習支援

ア 学習支援

- ・障害のある学生の入試に伴う諸課題を検討し、体制を整えた。障害のある学生について個別の支援に加え、長期履修制度による履修期間の延長を実施した。【No.7 A】
- ・語学教育と留学を一体として学生の語学力を高めるため、英語・中国語教育センターに配置した特任講師により語学教育と留学支援を行った。【No.15-2】【No.86】
- ・修学支援業務の多様化に対応するため修学支援専門員を設置した。【No.47】

イ 生活支援

- ・留学生 SA 制度の試行として、日本人学生の SA が、空港への送迎や市役所での手続等、交換留学生の生活をサポートした。【No.46】
- ・Wi-Fi 環境について、使用箇所の表示やわかりやすい接続方法の掲示等の改善を図った。【No.35】【No.49】
- ・平成 29 年度に開始された給付型奨学金について、ポータル等を活用し学生への周知を行った。【No.51】

ウ キャリア支援

- ・早期の業界研究の機会として、1 年生に対し、3 年生向けインターンシップガイダンスや 4 年生による内定者報告会への参加を促した。【No.55】
- ・静岡 COC+事業に積極的に協力してバスツアーやマッチング会に参加した。外部機関の調査によると県内インターンシップに参加した学生の多くが企業研究の参考になったと回答し、参加者の県内就職率は 54.1%であったことから、県内就職促進について一定の効果が認められた。【No.59】
- ・独自に開拓したシンガポールでの海外インターンシップに学生 2 人が参加した。【No.58】

③ 研究

- ・教員特別研究として両学部の教員が協働して、他大学等の事例調査や専門家を招き研究会を実施するなど、新たな重点目標研究領域の提案に向けた検討を行った。【No.64】
- ・両学部の教員が協働して、浜松市楽器博物館おける館内イベントを実施したほか、国立民族学博物館の巡回展で工芸継承をテーマにした展示、ワークショップ等を行った。【No.65】
- ・科学研究費獲得に向けた学内研修会は、平成 29 年度より早期に実施し、申請書の作成ポイントを重点的に説明するなど、より実践的な内容に改善したほか、外部コンサルタントを活用して申請書の Web 添削システムを導入した。【No.70 A】
- ・研究内容のまとめ方など申請書作成の参考とするため、科学研究費に採択された教員の申請書を閲覧できる体制を整えた。【No.70 A】

④ 地域貢献

- ・地域連携実践演習のプログラムとして、賀茂地域 1 市 5 町と連携し、本学とイズミル経済大学（トルコ）の教員、学生が参加する産学共同国際デザインワークショップを開催した。【No.75 A】【No.77 A】【No.94】
- ・地域活性化・地域経済の発展を目的に、静岡銀行と地方創生に係る相互協力及び連携に関する協定書を締結した。【No.76 A】
- ・地域社会発展・人材育成に向け、人づくり、まちづくり、観光等多様な分野で連携を進めるため、静岡大学、静岡県立大学、本学と賀茂地域 1 市 5 町の相互連携に関する包括連携協定書を締結した。【No.76 A】
- ・文明と観光をテーマとして、県立大学で開催された比較文明学会において学長が基調講演し、観光分野等の教育研究について県立大学の学長、副学長等と意見交換を行った。【No.82 A】

⑤ グローバル化

- ・「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」による海外インターンシップへの支援を継続した。本学独自の開拓による在シンガポール企業でのインターンシップに2名の学生が参加した。【No.79 A】【No.87-1 A】
- ・静岡県と連携し、ベトナムにおいて開催された JASSO 主催の日本留学フェアにベトナム専門の教員と国際交流担当職員が参加し説明を行った。【No.91-1】
- ・イズミル経済大学(トルコ)との国際デザインワークショップは5周年を迎え、トルコ大使館等からゲストを招きセレモニーを開催した。【No.77 A】
- ・新たに交流協定を締結したサザンクロス大学について、初回の協定派遣者を募集・決定した。フランス・コートダジュール大学サステイナブル・デザイン・スクールとの交流協定締結を推進し、2019 年度に締結することになった。【No.93】

大学の教育研究等の質の向上に関する取組 項目別の評価状況

項 目	A	B	C	D	計
教育	3	42	0	0	45
学生支援	0	19	0	0	19
研究	1	10	0	0	11
地域貢献	5	6	0	0	11
グローバル化	1	8	0	0	9
平成 30 年度計	10 (10.5%)	85 (89.5%)	0	0	95
平成 29 年度 評価結果計	14 (15.4%)	77 (84.6%)	0	0	91

(2) 法人の経営に関する取組

(業務実績報告書 P34~P40)

特筆すべき取組及び成果等

① 業務運営

- ・ 創立 20 周年を迎えるに当たり、外部関係者等を含む 20 周年記念事業推進委員会を設置・開催し、式典開催日や会場等の事業概要を決定したほか、専門部会による検討を進めた。【No.96】
- ・ 時間外勤務管理システムを導入し、決裁業務や集計処理業務等の効率化を実現した。
【No.97】 【No.108】
- ・ 休日の学内業務（オープンキャンパスや公開講座等）に従事するため一時保育を利用した場合の保育料の半額を補助する制度を試行した。【No.105】
- ・ 監事、会計監査人及び法人理事・職員による三者の意見交換会については、より効果的なものとするため、法人理事長、副理事長も出席し、活発な意見交換を行った。【No.112】

② 財務内容

- ・ 外部研究資金の獲得のため、研究助成財団等の公募情報を積極的に収集し、過去の公募情報と併せて Web サイトに掲載して情報共有を図った。研究計画調書の Web 添削システムを導入した。【No.113-1】
- ・ 寄附に関するパンフレットを後援会及び同窓会等に配布し寄附金を募集した。広報誌に基金に関する記事を掲載し一般に配布した。【No.113-2】

法人の経営に関する取組 項目別の評価状況

項目	A	B	C	D	計
業務運営	0	18	0	0	18
財務内容	0	6	0	0	6
平成 30 年度計	0	24 (100%)	0	0	24
平成 29 年度 評価結果計	0	24 (100%)	0	0	24

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

(業務実績報告書 P41~P43)

特筆すべき取組及び成果等

① 自己点検・評価

- ・ 認証評価期間の中間年及び中期計画期間の中間年に当たり認証評価機関の大学評価基準に基づいて自己点検評価を実施した。【No.119】

② 情報公開等

- ・ 学生募集に広く活用する大学案内にて、本学の教育の特色を印象付けるため、「知と実践の力」というキーワードを用いた企画ページを作成し受験生に周知した。【No.121】
- ・ 大学の特徴的な建物、浜松駅から徒歩 15 分の立地状況を紹介するため、ドローンを活用して空撮映像を作成し Web サイトに掲載した。【No.121】
- ・ 本学 Web サイトを誰もが支障なく利用できるよう、Web アクセシビリティに対応し、事務局各室と連携して JIS 適合レベルを維持した。【No.120】
- ・ 県政記者クラブや浜松市の市政記者クラブへの投げ込みのほか、大学担当の記者に直接連絡を行い、教育研究活動の取材依頼を行った。【No.122】

自己点検・評価及び情報の提供に関する取組 項目別の評価状況

項目	A	B	C	D	計
自己点検・評価	0	1	0	0	1
情報公開・広報	0	5	0	0	5
平成 30 年度計	0	6 (100%)	0	0	6
平成 29 年度 評価結果計	0	6 (100%)	0	0	6

(4) その他の業務運営に関する取組

(業務実績報告書 P44~P48)

特筆すべき取組及び成果等

① 施設・設備

- ・県施設整備費補助金及び前中期目標期間繰越積立金を財源として、防犯カメラの更新・増設及び屋外壁面の大規模修繕を進めた。【No.125】
- ・将来構想検討委員会において、創立 20 周年記念事業に向けた学内施設のあり方について議論を開始した。【No.127】
- ・グループウェアのライセンスについて調査し、ライセンスの導入を行った。【No.126】

② 安全管理・防災対策

- ・災害発生後の初動対応をより組織的なものとするため、教職員用の大災害対応マニュアルとして学内保管版と自宅保管版を作成し、教職員に配付した。【No.132】
- ・全教職員を対象とした情報セキュリティに関する研修会を開催した。また、全教職員を対象として、試験的に標的型不審メール対応訓練を行った。【No.136】
- ・新入生ガイダンスに加え、安否確認システムの説明会を行い学生の安全管理に対する意識の向上を図った。【No.135】
- ・私費による留学や語学研修で渡航する学生にもトータルサポートシステムへの加入を呼びかけ、海外での危機管理体制の強化を図った。【No.134】

③ 人権尊重・社会的責任

- ・6月にハラスメント相談員と相談支援員を対象とした研修会を開催し、10月には全教職員対象に、LGBT 学生の対応等、ハラスメント事例の最新の動向や対応・防止策等についての研修会を開催した。【No.137】
- ・ハラスメント相談窓口を周知する名刺大のカードを学内 50 箇所に配架するとともに、大学公式サイトに「ハラスメント専用ページ」を開設し、相談の流れや相談窓口等の周知を図った。【No.137】
- ・全教職員を対象に、「適切な公的研究費の執行について」をテーマに監査法人の公認会計士による学内研修会を実施し、コンプライアンスに関する意識の向上を図った。
【No.138】
- ・中部電力と交渉し、契約期間と契約容量等を調整することで電気料金を引き下げた。
【No.140】

その他業務運営に関する取組 項目別の評価状況

項目	A	B	C	D	計
施設・設備	0	3	0	0	3
安全管理・防災対策	0	9	0	0	9
人権尊重・社会的責任	0	4	0	0	4
平成 30 年度計	0	16 (100%)	0	0	16
平成 29 年度 評価結果計	1 (6.3%)	15 (93.7%)	0	0	16

